

鎌ヶ谷市地域福祉計画策定・推進委員会（委嘱状の交付及び第1回会議）会議録

日 時：平成29年3月29日（水）10時～11時30分

場 所：鎌ヶ谷市総合福祉保健センター4階会議室

出席者：九谷林太郎副委員長、三好志都美委員、馬場一郎委員、徳田訓康委員長、三浦弘委員、
山本幸子委員、福澤明二委員、近松光夫委員、田邊光子委員、中野洪委員 以上10名

欠席者：石川宏貴委員、川村浩幸委員、山根亜紀委員 以上3名

事務局：健康福祉部 望月部長、斉藤参事

社会福祉課 高橋課長、白藤課長補佐、會澤主査、鈴木主事、鈴木主事補 以上7名

関係者：鎌ヶ谷市社会福祉協議会 高橋事務局次長 以上1名

公開・非公開の区分：公開

傍聴者：0人

次 第：1 開会

2 委嘱状の交付

3 第1回会議

議題

(1) 委員長及び副委員長の選出について

(2) 会議録署名人の選出

(3) 第3期鎌ヶ谷市地域福祉計画の進捗管理・評価について

(4) その他

4 閉会

会議録

1 開会

2 委嘱状の交付

(1) 委嘱状の交付

(2) 健康福祉部長の挨拶

(3) 委員及び事務局の自己紹介

3 第1回会議

議題 (1) 委員長及び副委員長の選出について

山本委員より委員長に徳田委員、副委員長に九谷委員の推薦があり、全員異議なく承認された。

議長の交代

仮議長の高橋課長から、徳田委員長に議長を交代した。

委員長の挨拶

徳田委員長

この推進委員会では、地域福祉計画に位置付けられた施策に関する事業の評価、改善及び提言を行うということで、委員の皆さんの豊富な見識や市民目線での意見により、様々な角度から計

画推進に対する審議をお願いするとともに、円滑に会議を進めていきたいので、ご協力をお願いしたい。

議題（２）会議録署名人の選出について

会議録署名人については、名簿順での選出とし、九谷委員と三好委員とし、会議録は要点筆記とした。

議題（３）第３期鎌ヶ谷市地域福祉計画の進捗管理・評価について

徳田委員長

議題３ 第３期鎌ヶ谷市地域福祉計画の進捗管理・評価について、事務局に説明を求める。

事務局 白藤課長補佐

まず、計画の進捗管理と評価に対する基本的な考え方を説明する。資料４の１ページを見ていただきたい。

第３期鎌ヶ谷市地域福祉計画では、行政と社会福祉協議会が実施する取り組みの中で、高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画、障がい福祉計画、子ども・子育て支援事業計画などの個別計画で位置づけられている事業を参考事業として、地域福祉計画の下に位置づけた。

計画の進捗管理については、地域福祉計画の１３４ページ以降に位置付けた９３個ある参考事業の進捗状況及び地域での共助の取り組みを、毎年度、個別にチェックすることで、各年度における取組みの達成状況を評価する。なお、行政内部における進捗管理と評価の作業にあたっては、関係各課の作業負担を減らすため、関係各課が持っている個別計画の進捗管理や評価の中で、地域福祉計画に位置づけられている事業と同じものがあれば、関係各課の個別計画の評価を取り入れることとして、合理化や整合性を図っていきたいと考えている。

次に、これらの進捗管理や内部評価をまとめた資料を、今回設置した鎌ヶ谷市地域福祉計画推進委員会に毎年報告し、実施状況を検証、評価してもらうとともに、課題や今後の取り組み内容などに対して、課題解決につながる協働や共助の意見や提案などを、委員の皆さんからいただく。その意見を関係各課に還元し、各事業の改善を図り、計画の達成に努めることとする。これがPDCAサイクル、プラン、ドゥ、チェック、アクション、すなわち、計画、実施、評価、改善というサイクルで、地域福祉計画の進捗管理と評価を行いたいと考えている。

次に、資料の２ページを見ていただきたい。平成２８年度から３２年度までの５年間、評価の対象となる事業は９３事業ある。計画書の最後の方、１３４ページから１４４ページまでのところで事業の内容が細かく書かれている。参考事業等の資料は資料７として用意した。

まず、基本目標１「地域で支えあう取り組みを推進します」だが、３４事業が位置づけられている。次に基本目標２「必要な相談・情報・支援が得られるしくみを推進します」については、２７事業、次に、基本目標３「安全で安心して暮らせるしくみを推進します」については、２５事業、そして最後に、基本目標４「地域福祉を支えるネットワークを推進します」については、７事業が掲げられている。

次に、作業の進め方だが、カラー刷りのシート形式になっている資料5、「進捗管理・評価シートの書き方と記入例」を基に説明する。これは、毎年度の事業が達成できたかどうかを年度ごとに確認するものである。

では、シートの上から順に説明したい。

まず、一番上の、基本目標、施策、主な取り組みの3項目については、計画全体として、基本目標が4つ、そしてそれにぶら下がっている施策1～10、またその下の市の取り組みが29個位置づけられている。

次に、オレンジ色の部分を見ていただきたい。市の取り組み29個の下に、各担当課が実施する93事業について、毎年度進捗管理を行う。記載例では62～64の災害時要援護者支援関係事業の3つが対象となっている。

次に、右側の事業の成果を表す指標だが、事業の成果を表す指標を設定し、当該年度の指標の実績値を記入する。ここでの事業の成果を表す指標は、「広報、冊子等による周知」としている。平成28年度において、この地域福祉計画の概要版を自治会経由で全戸配布したので、実績値は「1」となっている。

次に、真ん中の左側の薄い緑色の見出しの部分、平成28年度の具体的な取り組み、展開に対してどのような成果があったか、についてである。評価の対象となる年度の1年間について、何をどのくらい行ったのかを具体的に記入する。その結果、どのような成果があったのか、事業を行う前と比べて、どんな変化が起こったかなどを総括して記入する。ここでの、災害時要援護者避難支援制度周知事業については、公共施設や関係団体、自治会に地域福祉計画概要版を3万部配布した実績を記入した。

次に、右側の部分、進捗状況についてである。当該年度において、取り組み事業が達成できたかどうかを4段階で確認する。上から順に、

- ・順調に進んでいる。
- ・概ね順調だが、不十分な点が少しある。
- ・実施されている部分もあるが不十分な点が多い。
- ・最後に実施方法も含めて改善が必要である。

となっている。

例として、災害時要援護者避難支援制度周知事業は順調に進んでいる、と自己評価した。

次に、下の部分、薄い緑色の部分、平成29年度、①課題や今後の方針、②課題解決のため、市民や地域に協力してもらいたいことの2つを記入する。

①の課題や今後の方針についてだが、事業を進めていく上での課題や、4段階で評価した「進捗状況」を踏まえて出てくる課題など、その解決に向けた改善内容と、今後の取り組み方針または内容を記入する。例として、ここでは、「災害対策基本法の改正に伴い、鎌ヶ谷市地域防災計画を見直し、避難行動要支援者の範囲を定めることとなった。そのうえで現行の鎌ヶ谷市災害時要援護者避難支援計画を鎌ヶ谷市避難行動要支援者避難支援プラン(全体計画)として改定を行う。」としている。

次に②だが、事業の推進や課題解決のために、行政から市民、地域に対して、協力してほしいことがあれば記入する。行政のみで事業を終わらせるのではなく、市民や地域でできることがあれば一緒に協働でやりましょう、と呼びかけていく内容になっている。ここでは、市民や地域の

みなさんに対するお願いとして、日ごろの見守り、声かけを地域で実施し、避難支援を行う地域支援者を増やし、その後、支援プランの作成にも参加いただけないかと考えている。

最後に、一番下の濃い緑色の部分、委員会から課題解決につながる協働・共助の意見、提案についてである。

これは、委員の皆さんが担当する評価作業になる。これは、課題や今後の取り組みに対し、市民や地域が解決できることや行政への要望など、協働・共助の視点に立ったご意見を委員のみなさんで議論して記入していただくことになる。

以上、説明したが、このような進捗管理・評価手法について、意見を伺いたい。

徳田委員長

それでは、ただ今の説明に対し、何か質問はあるか。

徳田委員長

この評価シートは、毎年作って行って、内容は変わっていくものなのか。

事務局 白藤課長補佐

93事業のテーマは基本的に変わらないと思っているが、各課で作成している個別計画は、この地域福祉計画と同じ周期で作っているわけではないので、見直し、改定の際に変更が出る可能性はあるかと思う。

ただし、毎年度階段を上るような感じで評価していただき、改善していくことで、この評価シートが積みあがっていくようなイメージである。

徳田委員長

各年度における実績値の意味するところはということなのか。

事務局 白藤課長補佐

お手元の資料では、「災害時要援護者避難支援制度周知事業」として、地域福祉計画の概要版を昨年（平成28年）の策定委員会で皆さんの総意により全戸配布をすることを目標としたので、これを達成したことで、実績値として1回と記入した。

山本委員

全戸配布をしたからといって、地域福祉計画の内容が十分周知されたことにはならないのではないか。1回実施すればいいというものではないと思う。

事務局 白藤課長補佐

おっしゃる通りであり、そこが難しいところだ。この「災害時要援護者避難支援制度周知事業」の後に、来年度（平成29年度）の「避難行動要支援者名簿整備事業」を予定している。その対象者を地域防災計画に位置付ける作業を現在進めているが、多くの高齢者や障がいの方などが含まれる。その人たちを支援する側の方たちは、多くの地域住民を想定している。安倍内閣の国民

総活躍社会ではないが、地域福祉計画を実現するためには、鎌ヶ谷市民総活躍が必要ではないか。よって、事業を実施していくなかで、次の周知方法についても見えてくるのではないかと考えている。

福澤委員

達成の度合いをどのように評価するのか。○×△でもよいので、つけられるようにした方がよいのではないか。その方が計画自体も進みやすくなるのではないか。

中野委員

この評価シートは、大変よくできていると思う。例えば、「災害時要援護者避難支援制度周知事業」として、1回目に概要版を全戸配布した後、平成29年度の2回目は、関係者を集めて説明会を実施するなどが考えられ、進捗状況も4段階評価となっているので、これで十分ではないか。

福澤委員

何らかの方法で評価の形が出ればよいと思う。

田邊委員

私もよく考えられたものだと思う。ただし、会議を何回実施したとかも大切だが、一番大事なことは、この計画の中身が見えるような管理シートにするにはどうすればよいかということではないか。実施年度の具体的な取組みの欄や次年度の課題や今後の方針の欄にもっと書けるようにすることはできないか。

事務局 白藤課長補佐

今回は、あくまでも案として提案している。エクセルシートで作っているので、フレキシブルに項目を広げることや、裏面を使ったり、用紙サイズを変えて作ることも可能と考えている。

近松委員

話し合いの中で、新しいものができたらその際に項目が入るようにすればよいのではないか。

三好委員

私も、このシートはよくできていると思う。点数化したような評価よりも今年度どんなことをして、来年度どんな取り組みをしようとしているのかを分かりやすく見えた方が私はよいと思う。

九谷副委員長

このシートは、社会福祉課の担当ということで担当課ごとに見ているが、我々地域福祉計画をつくった側の人間は、全体として大所、高所の見方もしていく必要がある。計画の運営においては、地域の高齢化が進み、若年層の参加も少ない状況で難しい面もあると感じている。

三浦委員

あまり項目が多すぎると悩ましいので、ちょうど良いのではないかと。

馬場委員

93事業あるが、これは担当課が自己評価したデータを上げてきて、一番下の委員会からの意見を我々がまとめていくのか。

事務局 白藤課長補佐

その通りである。今後のスケジュールその他は後ほど説明したい。

中野委員

この93事業の全部を担当課に書いてもらわなければならないわけで行政も大変で、我々も大変ではあるが、これでやってみたらよいのではないかと。

事務局 白藤課長補佐

この評価方法で原則実施することに賛同いただきありがとうございます。いろいろなご意見をいただいたので、今後それらを取り入れて、改善していきたいと思う。

徳田委員長

事務局、説明を続けてください。

事務局 白藤課長補佐

続いて、資料4の4ページを見ていただき、具体的な作業手順について説明したい。

委員の皆さん方の意見や取りまとめを行うにあたり、93個の事業を一つずつ検証するのは大変手間なので、委員会の中で3つの作業部会を設置し、各部会においてそれぞれの部会が担当する取り組みについて検証を行っていただければと思う。

第1部会は、「基本目標1 地域で支えあう取り組みを推進します」、第2部会は「基本目標2 身近な相談・情報・支援が得られるしくみを推進します」と「基本目標4 地域福祉を支えるネットワークを推進します」の2つ、第3部会は「基本目標3 安全で安心して暮らせるしくみを推進します」となる。また、検討する項目数は、上から順に10項目、9項目、10項目とバランスよく配分した。すなわち、評価シートは各部会で10枚ずつとなる。また、各部会の人数も順に4名、5名、4名とし、各部会でそれぞれ評価してもらい、その結果を改めて推進委員会で確認させていただく形となる。この手法についてご意見を伺いたいと思う。

徳田委員長

それでは、ただ今の説明に対し、意見はあるか。

中野委員

13人を3部会に分ける案を持っているのか。

事務局 白藤課長補佐

大変僭越ながら、皆様の役職や今までのご意見の傾向を考慮して案を作ってみました。

第1部会 徳田委員長、福澤委員、近松委員、中野委員

第2部会 石川委員、三好委員、馬場委員、山本委員、田邊委員

第3部会 九谷副委員長、川村委員、三浦委員、山根委員 と考えているが、いかがか。

徳田委員長

異議がないので、このように決定したい。続いての説明を事務局、お願いしたい。

事務局 白藤課長補佐

続いて、評価結果の報告、公表について、4ページの(3)を見ていただきたい。

推進委員会からの評価結果を受け、事業を行っている担当部署及び社会福祉協議会へ報告を行い、市ホームページ等を通じて、委員会の評価結果を公表してはどうかと考えている。

次に(4)事業、次年度への取り組みの反映についてである。

委員会から課題につながる協働・共助の意見、提案等を受けた担当課は、各個別計画への反映や見直し等を行う。事業の主体が、社会福祉協議会や活動団体の場合は、それぞれの活動方針等に反映してもらい、次年度の取り組みに向けてそれぞれ市と連携を図りながら着手していく。という流れとなる。

次に、作業スケジュールについて、5ページを見ていただきたい。

地域福祉計画の進捗管理及び評価についての作業のスケジュールは、この通りの流れを予定している。6月から7月にかけて、行政内部で評価シートを作成し、それをとりまとめて、皆さん方委員で評価していただくために、8月から9月にかけて作業部会を開いていただけないかと考えている。その後、再度本委員会で確認し、委員会からの評価結果を10月頃に市に報告し、各事業担当課や市ホームページに公表する。その後、事業や各分野別への個別計画への反映を行うという流れになるが、今回初めて実施する作業なのでスケジュールについては、臨機応変に対応したいと考えている。

続いて、資料6を見ていただきたい。進捗管理・評価の担当課一覧である。それぞれの担当課が取り組む事業は、社会福祉協議会を含めて24課となっている。一番多いのが高齢者支援課の24事業、そして次に社会福祉協議会が16事業と、特に多くなっている。それ以外はまんべんなく渡っている。

この表を基にして、先ほどの評価シートを早めに関係各課に作成を依頼しようと考えている。説明は、以上になる。

徳田委員長

ただ今の説明に対し、何か質問はあるか。

徳田委員長

作業部会の会議日程は調整してくれるのか。

事務局 白藤課長補佐

8月、9月に作業部会を開いていただきたいと思うが、初年度ということもあり、皆さんの予定や関係各課からの提出状況もみてみないとわからないので、少々フレキシブルに考えていただければありがたいと思う。

徳田委員長

本日の議題は終了した。長時間にわたったが、最後の閉会にあたり、副委員長の九谷委員から一言お願いしたい。

九谷副委員長挨拶

活発なご意見をいただき、よかったと思う。目標がはっきりしてきたので、皆さんのお力を得て進めていきたいと思うので、よろしくお願いしたい。

徳田委員長

それでは、これをもって、鎌ヶ谷市地域福祉計画策定・推進委員会第1回会議を閉会とする。皆さん、長い時間お疲れ様でした。

4 閉会

会議録署名人署名

以上、会議の経過を記載し、相違ないことを証するため、次に署名する。

平成29年4月14日

氏 名 九谷 林太郎

氏 名 三好 志都美